

ヒューマンコミュニケーション～価値ある生活環境構築のための情報技術～ 論文特集の発行にあたって

ヒューマンコミュニケーション～価値ある生活環境構築のための情報技術～
論文特集編集委員会

委員長 川原 靖弘



今日、情報通信技術（ICT）の発展による情報機器の小型化と通信インフラの拡充が進み、生活空間においても、その利用が急速に促進されている。少子高齢化、省エネ、ヘルスケアが注目されている現代において、この状況を生かし、社会及び個人にとってより価値の高い生活環境を構築するための利用現場の声も反映した情報技術の研究が望まれている。その一方で、高齢化に対応しつつ個人が営む生活の価値を重要視するという社会のニーズがあり、ICTの生活及び社会への実装は慎重に行われる必要がある。ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）は、その要望に応えるため、人と人、人をとりまく環境とのコミュニケーションに関連する分野横断的な研究調査活動を通じて、学問、技術、サービスの発展を期し、ならびに人材の育成を促進し、豊かなコミュニケーション社会を形成することに貢献するための活動を行っている。また、他分野の学会と積極的に連携し、その活動の場を広げている。

HCGでは、このような分野を横断的に議論する必要性から、関連する研究分野を集めた最新の研究成果を広く会員に伝えることを目的として、和文論文誌D（2014年1月号）にて特集を企画した。これまで、和文論文誌にて4回、英文論文誌にて3回のヒューマンコミュニケーション特集が組まれてきたが、今回は、前回と同様に和文論文誌Dでの特集を企画した。

本特集には、一般論文、レターを合わせて44編の投稿があり、厳正な査読を行った結果、一般論文16編、

レター5編を採録した。これらの論文は、ヒューマンコミュニケーション基礎、ヒューマン情報処理、福祉工学、バイオサイバネティクス、ニューロコンピューティング、生体工学、画像認識、コンピュータビジョン、計算機システム、データ工学、Web情報システムのカテゴリに分かれており、価値ある生活環境構築のための情報技術について広く俯瞰できる内容となっている。また、本特集は、HCGシンポジウムと連携しており、今回採録した論文に、HCGシンポジウム2012（2012年12月）からの推薦論文4編が含まれている。これらの研究成果が、生活空間でのヒューマンコミュニケーションにおけるICT利用に大いに貢献できるものと期待している。

なお、本特集は多くの方々の御尽力により成立した。本特集にご投稿頂いた方々、査読、編集に取り組んで頂いた編集委員及び査読委員、特に、編集幹事の安藤英由樹先生、和田親宗先生、そして、副編集長の飯塚重善先生には多大な御尽力を頂いたことをここに記し、深く感謝する。

川原 靖弘（正員） 2000京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科卒。2005東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程了。同年東京大学大学院新領域創成科学研究科助手。2010神戸大学大学院システム情報学研究科特命講師。2011放送大学大学院文化科学研究科准教授。現在に至る。博士（環境学）。移動体センシング、無線測位、認知科学等の研究に従事。ヒューマンインタフェース学会、日本時計学会、人間情報学会会員。

